

しが国際協力親善大使レポート

うえさと かなこ
上里 佳那子さん

隊次：2017年度2次隊

職種：助産師

派遣国：グアテマラ

プロフィール

助産師免許を取得後、病院で産婦人科、MFIU（母体胎児集中治療室）での勤務を経験。日本語を話せない患者さんが周囲とコミュニケーションを取れずにひとりで過ごしている姿を見て、何かできないかと思っていたときにJICA青年海外協力隊の募集を知った。実際に現地の人と一緒に生活をしながら、青少年に対する性教育を行ったり、妊娠・出産・育児を行う女性やその家族に関わったりできることに魅力を感じて応募した。2017年9月からニカラグアで活動していたが、情勢不安により任国変更となり、2018年8月からグアテマラで活動中。

グアテマラの紹介

グアテマラ（グアテマラ、ガテマラとも言います）は『薪になる木の豊かな場所』を意味するナワトル語に由来するといわれています。グアテマラはメキシコ、ホンジュラス、エルサルバドル、ベリーズと4つの国と国境を接していて、国鳥ケツァールやコーヒーが有名です。公用語はスペイン語ですが、23ものマヤ系言語が存在していて、それぞれの民族が独自の文化を持っています。世界遺産「ティカル遺跡」は、紀元前1世紀には王朝が成立したとされていて、今でも巨大な遺跡群を見ることができます。夏至や冬至を正確に把握していたり、マイクがない時代にマイク替わりになる仕組みを作っていたりするなどマヤ民族の知性の高さを感じさせる遺跡が残っています。

活動や生活について

私の任地は、首都グアテマラ市から北西に位置し、県都サンタ・クルス・デル・キチェを經由してバスで約6時間の場所にあるキチェ県ホヤバフ市です。人口は約9万人、先住民が90%を占めていて、言語は公用語のスペイン語と現地語のキチェ語が使われています。

キチェ県ホヤバフ市では、10人に6人が自宅で出産しています。その理由は、自宅で家族と一緒に出産したい、遠いので病院に行く手段がない、キチェ語しか話せないので病院に行きたくないなど様々です。そんな時に自宅出産を手伝うのが、伝統的産婆です。希望する人が保健センターに申請することで伝統的産婆になることができますが、ほとんどの人が一度も学校に行った経験がなく、約半数が公用語のスペイン語を話すことができません。安産なら特に心配はありませんが、何か異常があったとき、例えば大量に出血した時にどうしたらいいのかわからず、そのままにしてしまっただけで産婦さんが亡くなってしまうことがあります。異常があったときに、正しいタイミングで病院に行っていれば亡くならずに済んだ命を救うために、伝統的産婆だけではなくお母さん自身にもどうしたら病院に行くべきなのかを伝えることを主に行っています。

青年海外協力隊としての生活は驚きの連続です。先日、伝統的産婆の自宅に行く機会がありました。自宅には、アルマジロの殻が干してあり、何に使うのか尋ねると「妊娠中の痛みを取るためにアルマジロの殻を粉にしたものと、薬草と一緒に煮出したものを飲むんだよ」と教えてもらいました。日本でアルマジロの殻が薬になるという話は一度も聞いたことがありません。このアルマジロ茶(?)がどのように作用するのかは正直わかりませんが、伝統的産婆は、何百年という歴史の中で地域に根ざした出産をしてきました。地域の出産を担う存在として地元の人たちからも信頼されています。その事実を尊重し、私が知っている知識を伝えるだけでなく、何百年と続く伝統的産婆の伝統も同時に学んでいきたいと思っています。



家庭訪問先で、伝統の手織りをしている女性とともに



世界遺産ティカル遺跡です。映画スターウォーズの舞台にもなったそうです



アルマジロの殻を砕いて薬草と一緒に煮ると伝統的に受け継がれてきた薬が出来ます